

SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度選定

群馬県みなかみ町

2021年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

みなかみ町 SDGs 未来都市計画
～水と森林と人を育む みなかみプロジェクト20

-

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

みなかみ町 SDGs 未来都市計画 ～水と森林と人を育む みなかみプロジェクト2030～

(2) 2030年のあるべき姿

・美しい自然と里地里山を中心に、観光・商工業・農林業・教育・健康・福祉・エネルギーなどの様々な分野が連携した、人と自然が共生する町。
 ・利根川源流の町として、またユネスコエコパークの町として、人と自然の良好関係を保ち、持続可能な発展を続けるモデル地域としてSDGsの達成に貢献する。

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
 8 働きがいも経済成長も	 4 質の高い教育をみんなに	 6 安全な水とトイレを世界中に
 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	 11 住み続けられるまちづくりを	 7 たくわえられたエネルギー
	 17 パートナシップで目標を達成しよう	 12 つくばないで消費しよう
		 13 気候変動に具体的な対策を
		 15 陸の豊かさを保ち増やそう

(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※口内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	観光消費額	2018年 18,842 百万円	2020年 10,370 百万円	2030年 24,000 百万円	-164%
2	地域経済循環率	2013年 82.5 %	2015年 83.7 %	2030年 100 %	7%
3	農業所得者の総所得金額	2017年 232,443 千円	2020年 225,658 千円	2030年 250,000 千円	-39%
4	木材ステーション（仮称）における出荷額	2018年 0 千円	2020年度末 0 千円	2030年 10,000 千円	0%
5	ユネスコスクールに認定された町内小中高等学校の割合	2018年度末 0 %	2020年度末 0 %	2030年 100 %	0%
6	社会増減数	2018年 △123 人	2020年 △115 人	2030年 10 人	6%
7	地域づくり活動に関心を持っている町民の割合	2018年度末 50 %	2020年度末 47.7 %	2030年 80 %	-8%
8	サポーターズ会員（仮称）の数	2018年度末 0 人	2020年度末 1,864 人	2030年 50,000 人	4%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
9	里山などの整備や野生動物・植物の保全活動をしている町民の割合	2018年度末 12.3 %	2020年度末 11.8 %	2030年 50 %	-1%
10	自伐型林業グループによる森林整備面積（森林・山村多面的機能発揮対策交付金実績による）	2018年度 23.3 ha	2020年度末 26.8 ha	2030年 100.0 ha	5%
11	公共施設における薪ボイラー・ストーブ導入件数	2018年度末 ボ0 ス1 件	2020年度末 ボ0 ス1 件	2030年 ボ3 ス10 件	0%
12	薪ストーブ新規導入件数（薪ストーブ補助金実績による）	2018年度末 0 件	2020年度末 47 件	2030年 150 件	31%
13	家庭部門における二酸化炭素排出量	2015年度 28,111 t-CO ₂	2015年度 28,111 t-CO ₂	2030年 20,000 t-CO ₂	0%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

観光や農業など町の主幹産業はコロナ禍により町への来訪者が減少しており大きなダメージを受けている。薪ストーブについては導入件数が増えており、森林資源への関心の高まりや活用の促進が図られるなど順調である。みなかみ町の活動を応援してもらった（指標8サポーターズ会員（仮称）の数）ため、2019年度に開始された地域ポイントカードシステムの「みなかみハートカード」は、みなかみハートペイと名称変更し、スマートフォンアプリによる利用が可能となったことに加え、利用可能店舗等が増加するなど利便性の向上が図られ、さらなる効果が期待できるものとする。なお、地域経済循環率についてはRESASの数値を参照しているが、現在のRESAS上の数値が計画当初から変更されており、変更後の数値により算出した。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年目標値	達成度(%)
1	①木材の伐倒から利用まで一貫した林業の六次産業化	自伐型林業を実践するグループ数（森林・山村多面的機能発揮対策交付金実績による）	2018年度末 6 グループ		2019年度末 8 グループ	2020年度末 9 グループ	2021年 12 グループ	50%
2		自伐型林業を実践する従事者数（森林・山村多面的機能発揮対策交付金実績による）	2018年度末 46 人		2019年度末 74 人	2020年度末 83 人	2021年 100 人	69%
3		木材ステーション（仮称）における出荷額	2018年度末 0 千円		2019年度末 0 千円	2020年度末 0 千円	2021年 10,000 千円	0%
4		自伐型林業グループによる森林整備面積（森林・山村多面的機能発揮対策交付金実績による）	2018年度 23.3 ha		2019年度末 25.5 ha	2020年度末 26.8 ha	2021年 50.0 ha	13%
5		公共施設における薪ボイラー導入件数	2018年度末 0 件		2019年度末 0 件	2020年度末 0 件	2021年 1 件	0%
6		公共施設における薪ストーブ導入件数	2018年度末 1 件		2019年度末 1 件	2020年度末 1 件	2021年 5 件	0%
7		薪ストーブ新規導入件数（薪ストーブ補助金実績による）	2018年度末 0 件		2019年度末 20 件	2020年度末 47 件	2021年 50 件	94%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年目標値	達成度(%)
8		観光消費額	2018年 18,636 百万円		2019年 16,968 百万円	2020年 10,370 百万円	2021年 24,000 百万円	-154%
9	②地域資源を活用した地域産業の振興と地域経済循環の仕組み構築	ローカルベンチャーの創業・起業件数	2018年度末 0 件		2019年度末 3 件	2020年度末 15 件	2021年 18 件	83%
10		直売所の農産物販売額	2018年度 230,338 千円		2019年度 155,769 千円	2020年度末 211,287 千円	2021年 250,000 千円	-97%
11	②地域資源を活用した地域産業の振興と地域経済循環の仕組み構築	サポーターズ会員（仮称）による町内消費額	2018年度末 0 百万円		2019年度末 266 百万円	2020年度末 323 百万円	2021年 500 百万円	65%
12		ユネスコスクールに登録された町内小中高等学校の割合	2018年度末 0.0 %		2019年度末 0.0 %	2020年度末 0.0 %	2021年 70.0 %	0%
13	③地域の将来を担う次世代の育成	里山などの整備や野生動物・植物の保全活動をしている町民の割合	2018年度末 12.3 %		2019年度末 10.6 %	2020年度末 11.8 %	2021年 30.0 %	-3%
14		ユネスコエコパークの理念やSDGs達成に向けて取り組む事業所・団体数	2018年度末 0 団体		2019年度末 0 団体	2020年度末 0 団体	2021年 50 団体	0%
15	④パートナーシップによる持続可能な社会の構築	サポーターズ会員（仮称）の数	2018年度末 0 人		2019年度末 446 人	2020年度末 1864 人	2021年 10,000 人	19%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

みなかみ町SDGsパートナー制度を令和3年10月1日から施行予定である。みなかみユネスコエコパークやSDGs未来都市に掲げる理念を共有し、ともに取り組む企業、団体、及び個人事業者をみなかみ町SDGsパートナーとして登録し、その取組を広く周知するとともに、みなかみ町とSDGs達成に向け連携を図っていくもの。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

林業の六次産業化を図る取組については、自伐型林業に携わる人材育成及び実践が順調である。薪ストーブの導入件数についても順調であり、森林資源への関心の高まりや活用の促進が図られている。木材ステーション（仮称）や公共施設への薪ボイラーなどについては、調査研究など具体的な設置に係る議論が展開されているところである。ユネスコスクールの登録については、3校が登録に準じたキャンディデイト扱いとなり、ユネスコスクールと同様の活動が認められたところである。みなかみ町の自然環境などみなかみの強みを理解しその強みを活かしたローカルベンチャーの起業件数は順調な推移をみせている。一方で、観光や農業など町の主幹産業はコロナ禍により町への来訪者が減少しており大きなダメージを受けている。【再掲】

提案時のモデル事業の推進状況については、資金調達やステークホルダーの調整等に時間を要しているが、上述のとおり、計画に記載の事業を中心に少しずつではあるが進捗がみられる。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・コロナ禍の影響は見られるものの、順調な進捗もあり、コロナ後の全般的な展開が期待される。どの事業も少しでも前進しようとする姿勢が見え、今後を期待する。
・観光面はコロナ禍なのでやむを得ないと思われる。一方で、地域づくり活動に関心を持っている町民の割合が当初値より落ちており、里山などの整備や野生動物・植物の保全活動をしている町民の割合も減少しているが、これはコロナ禍の影響なのか。本来的には、コロナ禍とはあまり影響しない項目であるので、その要因を精査して対策を講じるべきだと思われる。もし、指標の取り方の問題であるとすると、指標の取り方自体を改善する必要があると史料する。